

資料渉猟余話

その127

南信州地域資料センターに、箕瀨のよしわ産業さんより、沢山の資料が寄贈された。その中から、

百点を超える旧派(月並派)の俳句資料が見つかった。多くは、大正時代のものであるが、この時期の旧派俳句会について、

は、伝説を守り、呼ばれる俳句師たち、由緒正しいのは我々、わかっている。多

いことが多いので、貴重な研究資料になるだろう。今後の研究の可能性や、大正

期に俳句を楽しんでいた人々の姿などを紹介したい。

資料紹介の前に、「旧派俳句会」とい

ていた。しかし、こ

う言葉について触れたい。『旧派』

という言葉は、正岡子規ら、新派側が攻撃のために付けた名

称である。当然、旧派側では、自分たちを「古い派」とは思

っていない。宗匠と

呼ばれる俳句師たち、

は、伝説を守り、呼ばれる俳句師たち、

由緒正しいのは我々、わかっている。多

では現在、通常に使

われている「旧派」

「俳句」という言葉を

使わせていただく。

今回、まず行った

ことは、数々の資料

が混在していたの

で、できるだけ俳句

会毎に分類をした。

すると十を超え俳

他の資料を見ると、

大正期 旧派俳句会の楽しみ

竹村 雄次

句会資料が存在する

ことがわかった。そ

の中で多かった俳句

会は、①「伊賀良俳

友会」と書かれたも

のや同会の印章が押

されていたもの22

点。②瓢会・青瓢会

・瓢筆の絵などが描

かれた、「箕瀨の「青

瓢会」関係のもの17

刊の小林郊人編『伊

那の俳人』が扱

所あり、宗匠格の人

であることがわか

った。俳句も10句掲

載されていた。

また、同書には大

正末期の俳句会名

と、その幹部名があ

った。また、連合会

については同書に記

述は無く、直接、玉

玉齊等、とあり、こ

こには玉齊の名があ

った。文中に「復活

」とあったが、前の活

動についての記述は

見つけられなかつ

た。また、連合会に

ついては同書に記述

は無く、直接、玉

齊は佐藤里松、仲田

部は伊賀良俳友会

から、伊賀良俳友

会になったときの作

品を一句紹介すると、

「大楠の香や梅雨晴

れの神の庭」高得点

を得た句であるが、

と思われた。

以上の様に、『伊那

の俳人』には大正期

では、素直すぎる

の旧派俳句会は、簡

単に触れられている

に過ぎなかった。こ

れは同書に文を寄せ

のだろうか。大正期

は山田居麿、小林郊

人といった人たちが

が、どちらかという

と新派に属する人

で、旧派の扱いが軽

くなったように思わ

れる。以上から、こ

点では、はっきりし

たことは言えない。

玉齊俳句資料には膨

大な俳句が有るので、

だんだんに作品



寄贈された玉齊俳句資料

大正末期の俳句会名と、その幹部名があった。また、連合会については同書に記述は無く、直接、玉齊は佐藤里松、仲田部は伊賀良俳友会から、伊賀良俳友会になったときの作品を一句紹介すると、「大楠の香や梅雨晴れ